

保育園での保護者面接

心理士としての役割とは

高木紀子

(山村学園短期大学)

[目的] 保育巡回相談の折に保護者面接を行うことがある。また、先駆的な試みとして保護者のカウンセリングを保育園にて行う（以下「保育カウンセリング」と記す）市区町村もある。2年前の発表データと比べつつ、保育現場に心理士が参入し保護者面接を行う際の心理士の役割について検討する。

[方法] 2010、2011年度に実施した保護者面接について、児の所属クラス、性別、児の状態、主訴等を記録から拾い、カウントする。

- ・ 巡回相談：都内多摩地区A、B、C市における公立、私立保育園5園
- ・ 保育カウンセリング：A市、E区私立、公立保育園5園。

[結果・考察]

所属クラス（人）		
クラス	巡回相談	保育カウンセリング
5才	5	11
4才	1	8
3才	2	7
2才	5	12
1才	2	3
0才	0	0
複数	0	19
不明	0	2

主訴（述べ件数）		
内容	巡回相談	保育カウンセリング
児の理解	11	30
児への接し方・しつけ	4	23
就学の問題	2	2
夫婦の問題	1	5
仕事・生き方	1	4
親の精神	0	10
園との関係	1	1
他の親との関係	0	1
他児理解	0	1
育児ストレス	0	0
祖父母との関係	0	0

専門機関を勧めたか（人）		
	巡回相談	保育カウンセリング
勧めた	7	15
うち繋がったもの	5	5
勧めなかった	3	26
すでに繋がっている	2	5

巡回相談での保護者面接回数：
5園で計15回（12人の保護者）

保育カウンセリングの回数：
5園で計62回（51人の保護者）

- ・ **巡回相談での個別相談は発達に関する相談である**；2010年のデータと同様、巡回相談枠での保護者との個別相談はその背景に発達障害に関する問題が存在していることがほぼすべてであると言える。主訴としては児の理解、接し方がわからないというもの、就学に関するもの、また、子どもの療育を優先するにあたっての仕事の存続の悩みもあった。結果的に専門機関に繋げる必要のあるケースがほとんどであった。
- ・ **保育カウンセリングでは相談は多岐にわたる**；保育カウンセリングでは巡回相談に比べて、専門機関に繋げる必要のあるケースは少なかった。相談内容は下の子の出産に際しての赤ちゃん返りや反抗期の対処法などを中心とする「児の理解、接し方」であった。2010年のデータと比べて、保育カウンセリングにおける親の精神を主訴とする相談が増えている。心理士が保育園に来ることが周知されたため、自ら希望して繋がるケースのほか、保育園側が心理士をうまく活用できるようになり、繋いでもらうケースもあった。保育カウンセリング事業の浸透が背景にあると考えられる。
- ・ **「繋ぐ」役割**；2010年のデータと同様、巡回相談でも保育カウンセリングでも親子の関係を繋ぐ役割が大きなものであると認められる。ここでは具体的な関わり方など心理教育的支援が心理士の大きな役割であると言える。さらにまた、保護者と専門機関を繋ぐ役割も果たしている。心理士が間に入ることで園と保護者の軋轢を避けられるので、園と保護者を繋ぐ役割でもあると言える。
- ・ **児の環境を整える役割**；心理士が保護者と個別相談を実施することで、保護者が児を理解し児との関わりを見直したり、障害受容が促されたり療育機関に繋がったり、自分自身の発達課題を見直したりすることとなっている。つまり、児の最たる環境である保護者自身の発達を支援する役割を担っていると言うことができる。児に直接関わるのは保育者であるが、心理士は間接的に保護者に関わり、児の環境を整え、児を支援しているということができる。

[参考文献] 『発達 82 保育を支援する発達相談』2000 ミネルヴァ書房

『発達 107 保育と参加を支援する巡回相談』2006 ミネルヴァ書房

日本発達心理学会第22大会 論文集 p. 635